

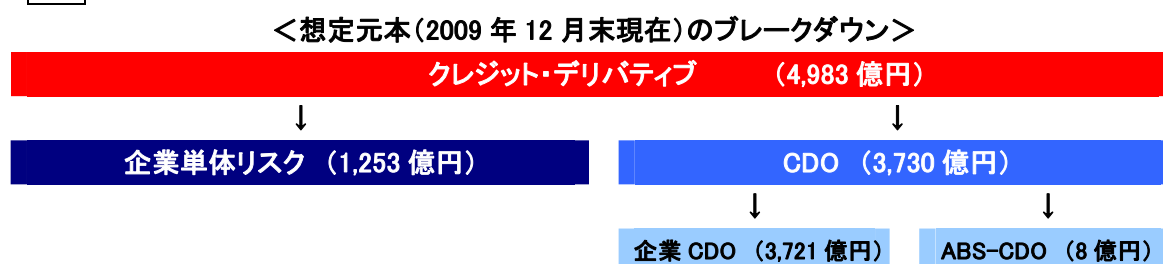
クレジット・デリバティブ等の状況アップデート(2009年12月末現在)

前四半期末同様、「クレジット・デリバティブ」ならびに「米国モノラインからの受再」につき、当四半期末の状況をQ&A形式でご報告します。2009年12月末現在の状況は以下のとおりです。

◆ 「クレジット・デリバティブ」について

Q1：想定元本（2009年12月末現在）の内訳を教えてください。

A1



- ・ 想定元本の総額は 4,983 億円（前四半期末比▲128 億円）。うち企業単体リスクの引受が 1,253 億円（同▲84 億円）、CDOの引受が 3,730 億円（同▲44 億円）です。
- ・ CDOの想定元本 3,730 億円のうち、企業CDOに係るものが 3,721 億円、ABS-CDOに係るものが 8 億円です。
- ・ 「クレジット・デリバティブ」における引受リスクは、想定元本の 99.8%が企業の信用リスクです。引受けているリスクの中に米国サブプライムは含まれておりません。

Q2：格付け別の残高構成を教えてください。

A2

企業単体リスクの引受 (億円)					CDO トランシェの引受 (億円)		
格付け	引受残高(構成比)				格付け	引受残高(構成比)	
	国内企業	海外企業	うち金融機関	引受残高		構成比	
AAA格	27 (2.2%)	27 (2.5%)	- (-)	-	AAA格	3,301 (88.5%)	
AA格	699 (55.8%)	649 (58.3%)	50 (35.5%)	-	AA格	282 (7.6%)	
A格	480 (38.3%)	426 (38.3%)	54 (38.3%)	-	A格	54 (1.5%)	
BBB格	28 (2.3%)	10 (0.9%)	18 (13.1%)	-	BBB格	- (-)	
BB格以下	18 (1.5%)	- (-)	18 (13.1%)	18	BB格以下	92 (2.5%)	
合計	1,253 (100%)	1,112 (100%)	140 (100%)	18	合計	3,730 (100%)	

- ・ 上表のとおりです。
- ・ 企業単体リスクの引受に関しては、A格以上の企業がポートフォリオの 96%を占めております。
- ・ また、CDOに関しては、AAA格以上が 89%、AA格以上が 96%を占めております。

Q3：「企業単体リスク」ポートフォリオの分散状況につき教えてほしい。

A3

- ・ 国内 62 社、海外 10 社の信用リスクを個別に引き受けており、1 与信先あたりの平均引受額は 17 億円です。

Q4：「CDO トランシェの引受」の平均的な劣後割合は何%か？

A4

- ・ 平均劣後割合（トランシェの引受額による加重平均）は 17%です。

Q5：クレジット・デリバティブの評価損益（2009 年 12 月末時点）は？

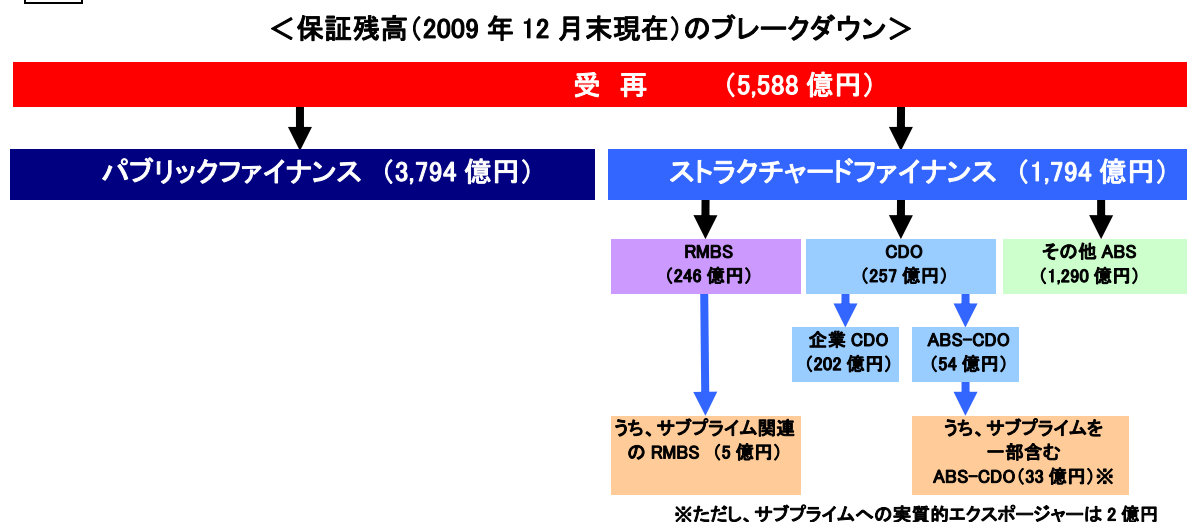
A5

- ・ 評価益 +209 億円（企業単体リスク +60 億円、企業 CDO +148 億円）を計上しました。

◆ 「米国モノラインからの受再」について

Q1：保証残高（2009 年 12 月末現在）の内訳を教えてください。

A1



- ・ 保証残高の総額は 5,588 億円（前四半期末比 +2 億円）。うちパブリックファイナンスに係る残高が 3,794 億円（同 +29 億円）、ストラクチャードファイナンスに係る残高が 1,794 億円（同 ▲26 億円）です。
- ・ ストラクチャードファイナンスに係る残高 1,794 億円のうち、RMBS に係るものが 246 億円、CDO に係るものが 257 億円、その他 ABS に係るものが 1,290 億円です。
- ・ なお、RMBS ならびに ABS-CDO の中に米国サブプライムを一部含むものがありますが、実質的なエクスポージャーは計 7 億円であります（決算短信 11 ページご参照）。

Q 2 : 「米国モノラインからの受再」ポートフォリオに占める CDO の割合 (特に ABS-CDO の割合) は米国モノラインの元受ポートフォリオにおける平均的な割合よりかなり低くなっているが、それはなぜか?

A 2

- ・ 金融サービス事業に係る受再は、再保険特約等を通じ米国モノラインから原債権の信用リスクの一部を引き受けるものですが、引受ポートフォリオが当社の引受ポリシーを反映したものになるよう条件設定をしております。
- ・ ポートフォリオに占める CDO の割合 (特に ABS-CDO の割合) が低いのはこのためです。
- ・ なお、以上のような理由から、「米国モノラインからの受再」ポートフォリオは、元受モノラインが元受で引き受けているポートフォリオと相似形にはなっていません。

Q 3 : 格付け別の残高構成を教えてください。

A 3

(億円)

格付け	引受残高 (構成比)	
AAA格	490	(8.8%)
AA格	1,462	(26.2%)
A格	2,054	(36.8%)
BBB格	1,345	(24.1%)
BB格以下	235	(4.2%)
合計	5,588	(100%)

- ・ 上表のとおり、A格以上が 72%、B B B格以上が 96%と、総体として良好なレベルを維持しております。

Q 4 : 元受モノラインの格下げが、貴社の受再ポートフォリオに影響を及ぼすことはないのか?

A 4

- ・ 当社が受再で引き受けているリスクは元受モノライン自体の信用リスクではなく、元受モノラインが引き受けた地方債や ABS など (原債権) の信用リスクです。
- ・ したがって、元受モノラインの格付低下により、当社が受再を通じて引き受けているリスクの内容やクオリティに影響を受けることはありません。

<ご参考> なお、米国モノラインに対する与信 (2009年12月末現在) としては、以下のものがあります。

- モノラインを単独の参照企業とするクレジット・デリバティブ (想定元本 18 億円)。
- このほか、モノライン保証債に関する保証・引受等が 71 億円、モノライン保証債への投資が 10 億円。(これらについて当社側に支払責任 (または実現損) が発生するのは、「原債券」と「当該債券を保証しているモノライン」の両方がデフォルトした場合に限られます。)

Q 5 : 「米国モノラインからの受再」に関して 2009 年 12 月末までに発生した 2009 年度のロス金額は？

A 5

- ・ 支払保険金と支払備金の合計で 15 億円です。

Q 6 : 支払備金の計上方法は？

A 6

- ・ 元受モノラインが将来的な損失発生見込みも踏まえて算出した金額に基づいて計上しています。

以上